

2026年 第20週 (5月11日～5月17日) の感染症発生動向調査情報

<今週の内容>

- 1 管内の感染症発生状況
- 2 麻疹について
- 3 ダニ媒介感染症について

1 管内の感染症発生状況

(1) 管内の全数把握感染症 (すべての医療機関から報告を求める感染症)

第20週は、報告はありませんでした。

(2) 定点把握感染症 (指定された医療機関から報告を求める感染症)

(2026年20週) ※定当：定点当たり患者数

インフルエンザ		RSウイルス感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		COVID-19	
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
1	0.33	-	-	1	0.5	3	1.5	13	6.5	-	-	-	-	-	-	1	0.5	1	0.33

ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎		感染性胃腸炎4(ロタウイルス)		急性呼吸器感染症	
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	180	60

※2025年4月7日から急性呼吸器感染症が追加になりました。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

◆厚生労働省ホームページ
[急性呼吸器感染症 \(ARI\)](#)

2 麻疹について

現在、国内において本年1月から4月30日までに436例の麻疹発生報告があり、2020年以降最多となっています。また、海外での流行も継続しており、急激な感染拡大がみられる国・地域も存在しています。

麻疹は、空気感染等により簡単に人から人に感染します。麻疹の免疫が不十分な人が感染すると高い確率で発症します。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。麻疹を疑う症状がある時は、医療機関に電話等で麻疹の疑いがあることを伝え、医療機関の指示に従ってください。また、医療機関への移動の際は公共交通機関の利用を可能な限り避けてください。

麻疹の予防にはワクチン接種が有効です。定期接種対象者（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）医療・教育関係者、海外渡航を計画している方は、予防接種が済んでいるかご確認ください。

<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[麻疹\(はしか\)について](#)

◆厚生労働省ホームページ

[麻疹\(はしか\)](#)

[MR7ワクチン](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[麻しん](#)

[麻しんの発生に関するリスクアセスメント\(2026年第一版\)](#)

3 ダニ媒介感染症について

今週、県内において重症熱性血小板減少症候群（SFTS）及び日本紅斑熱の報告が各々1名ありました。いずれも今年の累積患者数は2名となっています。

これらは主に病原体（ウイルスやリケッチア）を保有するマダニに咬まれることで感染します。

SFTSはSFTSウイルスを病原とし、主な症状は原因不明の発熱、嘔吐・下痢などの消化器症状、血小板減少、白血球減少などが認められ、重症化数すると死に至ることもあります。潜伏期間は6～14日で、治療薬はなく対症療法となっています。一方、日本紅斑熱はリケッチア・ジャポニカを病原とし、主な症状は発熱、発疹、刺し口が赤く腫れ中心部がかさぶたになるのが特徴です。潜伏期間は2～8日で、治療にはテトラサイクリン系の抗菌薬等が投与されます。

マダニの活動が活発となる春から秋にかけて、ハイキングや草むらに入る場合は、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を少なくする、虫よけスプレーを活用する、帰宅後すぐに入浴し着替えるなどの予防対策が有効です。また、山野へ入った2週間以内に発熱や発疹が出たときはすぐに受診し、その時の行動を伝えることが重要です。

<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[マダニに注意!ダニ媒介感染症について](#)

◆厚生労働省ホームページ

[ダニ媒介感染症](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)](#)

[つつが虫病](#)

[日本紅斑熱](#)